

新たな市政運営に向け

所信表明 (要旨)

本日、市長就任後初めての議会にあたりまして、私の市長としての所信の一端を申し上げ、議員の皆さん、ならびに市民の皆さんのご理解、ご協力を賜り

たくお願い申し上げます。

去る4月25日に執行されました市長選挙は、つくばみらい市の再生を期する選挙として行われ、議員の皆さん方をはじめ、

多くの市民の皆さん、そして各方面からの力強い支援をいただき、当選させていただいたことに、深く感謝申し上げますとともに、市政運営のかじ取りを任された重責を痛感しているところで

私は、以前から、我が郷土をどうにかしたい、そして誇れる郷土にしたい、という強い思いから、これまでに国政選挙、首長選挙に4度挑戦し、落選を経験しました。この経験が今の私を作り、あきらめたら何も出来ない、苦境に立たされたときにこそ初志を貫く、と常に挑戦する姿勢と不屈の精神を作り上げました。

私は、この選挙戦にあたり、市内をくまなく歩き、市民の皆さんの声を聞いてまわりました。その中で市民の皆さんからは「つくばみらい市は元気がない」、「活気がない」、「合併して4年も経つが合併効果が見えてこない」そして「地域格差が広がっている」など、たくさんのご意見が聞こえてきました。これは、長期にわたってへいそく的な行

政運営がされてきたことの証であり、守りの市政をしてきたからではないかと考えます。今こそ、市民に開かれた市政への転換が必要であると考えます。

私は、こうした市民の皆さんの切実な声を市政に生かすため、基本的な政策目標として、「次の世代に負担を残さない」、「しがらみのないまちづくり」、「誇れるまちづくり」の三つを目標に掲げます。

次の世代に負担を残さない

現在、市の地方債残高、言い換えれば市の借金は、平成21年3月末現在で、市一般会計、市特別会計等と一部事務組合分とを合わせますと約299億円あります。それを解消するには、一朝一夕でなしえるものではありません。だからこそ、財政の健全化に向けた大きな改革に、着手する必要があります。ムリ(無理)、ムダ(無駄)、ムラを無くす、この「三ム主義」を強力に推し進める必要があります。

現在実施中の事務事業であつ

ても、聖域を設けずに細かく事業精査をして、三ムの一掃を図り、次の世代の財政負担を極力少なくするように努めます。とは言え、ただ、やみくもに事業をカットするということでは、行政サービスの低下につながりかねません。その事業の目的は何なのかを再度見直したうえで、本当にその事業が市民のためになっているのか、市の将来のためになるものなのか、また今やるべきことなのかなどをとことん考え、今やらなければならぬことを、次の世代に後回しにしない決断をします。

しがらみの無いまちづくり

私が目指すべきは、公平・公正で、透明性が担保されたまちづくりです。市政は誰のものでもありません。市政は市民のためであり、そこには主役である市民の姿が見えなくてはなりません。これまで市政を縛り付けてきたしがらみを一掃し、市政の透明化、公平・公正化を図ります。

誇れるまちづくり

つくばみらい市は、首都40キロ圏内に位置するという好立地に併せ、常磐自動車道とTXが通るといふ素晴らしい交通環境にあります。こうした地理的条

平成22年第2回定例会で一般質問に答弁する片庭市長

